

今日のトピック 米国の債券市場(2015年8月)

ギリシャ、中国情勢の混迷から米国債利回りは低下

ポイント1 7月の米国債利回りは低下

海外情勢の混迷から反落

■7月の米国10年債利回りは、ギリシャのユーロ圏離脱懸念や中国株の急落等を受け投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、上旬は低下しました。中旬はギリシャへの金融支援合意、中国株の持ち直し等を受け上昇しましたが、下旬になると原油や金など商品価格の下落により再び低下に転じました。

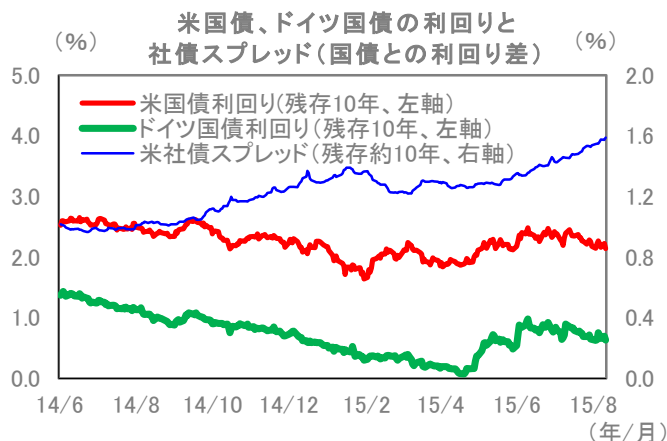
■米連邦準備制度理事会(FRB)は7月28日、29日の連邦公開市場委員会(FOMC)で金融政策の現状維持を決定しました。声明文では、利上げに踏み切るには、労働市場の「もう少しの改善」が必要とされました。前回の「さらなる改善」から一歩進んだ形になっており、利上げに向けた地ならしが着実に進んでいると考えられます。

ポイント2 米社債スプレッドは拡大

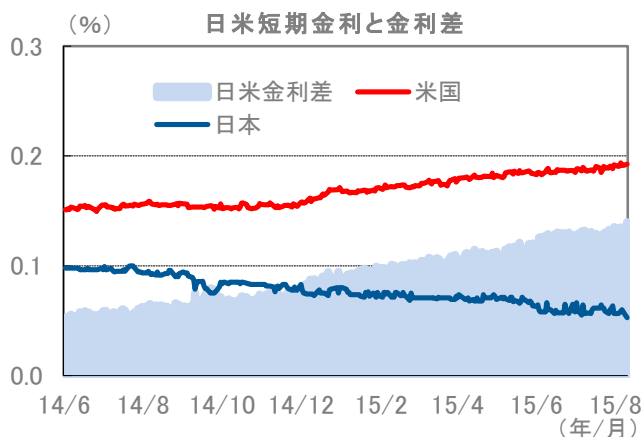
日米短期金利差は緩やかな拡大継続

■発行増による社債需給の悪化から、米社債スプレッド(国債との利回り差)は拡大しました。

■短期金利の動きをロンドン銀行間取引金利(LIBOR)でみると、米国の短期金利が上昇したのに対し、日本の金利が低下したため、日米金利差は若干拡大しました。



(注1) データは2014年6月1日～2015年8月11日。
(注2) 米社債スプレッドはバークレイズ・米国投資適格社債インデックス。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注1) データは2014年6月1日～2015年8月10日。
(注2) 日米短期金利はロンドン銀行間取引金利(LIBOR)1カ月物。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 利上げ局面を迎えるが、物価の落ち着きから国債利回りは安定へ

■雇用統計やISM景況感指数など、米国経済の順調な拡大を示す指標が増えています。

■景気の持続的な改善を受け、市場では早ければ9月16日～17日開催のFOMCで利上げが実施されとの観測が強まっています。

■ただ、物価が落ち着いていることなどから、利上げのペースは緩やかなものとなる見通しです。

■長期金利には上昇圧力がかかりやすい状況ですが、利上げペースが緩やかなことを踏まえると、大幅な上昇の可能性は低いと考えられます。

ここも
チェック! 2015年08月10日 米国の雇用統計(2015年7月)
2015年08月10日 「消費者物価」は上昇の見込み(米国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。